PS Construction

2027年3月期第2四半期 決算説明会

代表取締役 社長執行役員　櫻林　美津雄

2026年11月25日

目次

1. 2027年3月期第2四半期 決算概要 P. 2
2. 2027年3月期 業績予想 P. 11
3. 中期経営計画2025の進捗 P. 15
Appendix ご参考 P. 19

1. 2027年3月期第2四半期 決算概要

2027年3月期第2四半期業績サマリー

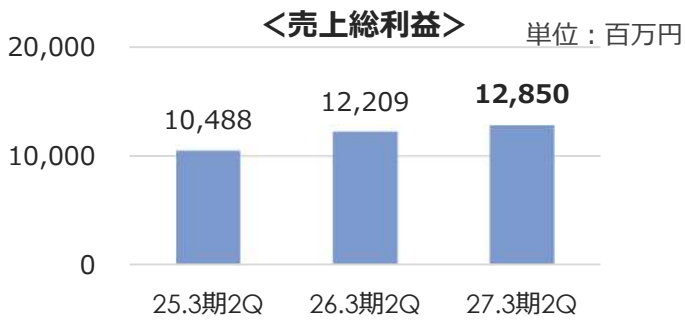
連結業績サマリー

■ 売上総利益、営業利益は中間期の業績として過去最高

（単位：百万円、%）		2025年3月期 第2四半期			2026年3月期 第2四半期			**2027年3月期 第2四半期**			コメント
		実績		前期比増減率	実績		前期比増減率	**実績**		前期比増減率	
受注高			80,404	44.9%		75,047	△6.7%		**86,101**	14.7%	建築事業大幅増加
売上高			64,851	12.5%		73,051	12.6%		**64,836**	△11.2%	土木、建築出来高減少
売上総利益		16.2%	10,488	21.8%	16.7%	12,209	16.4%	19.8%	**12,850**	5.2%	手持工事原価改善
営業利益		8.9%	5,747	73.6%	9.4%	6,836	19.0%	10.7%	**6,934**	1.4%	売上総利益増加、販管費増加
経常利益		8.8%	5,738	78.2%	9.3%	6,800	18.5%	10.4%	**6,731**	△1.0%	金利負担増加
親会社株主に帰属する中間純利益		5.8%	3,733	73.5%	6.0%	4,363	16.9%	6.7%	**4,344**	△0.4%	
1株当たり配当金（円）	中間		22.00	+5.00		40.00	+18.00		50.50	+10.50	
	期末		50.00	+23.00		80.00	+30.00	（予定）	50.50	△ 29.50	
	年間		72.00	+28.00		120.00	+48.00	（予定）	101.00	△ 19.00	



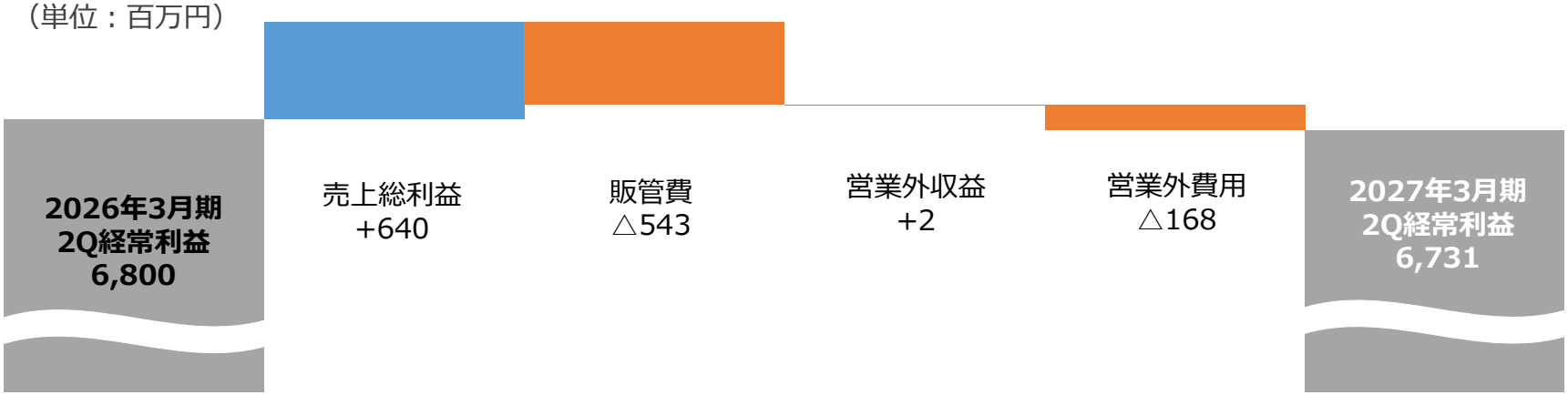




利益増減分析（前年同期比）

経常利益増減分析

（単位：百万円）



2026年3月期2Q経常利益	6,800	経常利益率　9.3%
売上総利益	640	設計変更獲得、原価改善
販管費	△543	人件費、DX関連、ブランディング費用増加
営業外収益	2	
営業外費用	△168	支払利息増加
2027年3月期2Q経常利益	**6,731**	**経常利益率　10.4％**

セグメント別業績

セグメント別　受注高・売上高・売上総利益

		2025年3月期　第2四半期			2026年3月期　第2四半期			**2027年3月期　第2四半期**			コメント
（単位：百万円、%）		実績		前期比増減率	実績		前期比増減率	実績		前期比増減率	
受注高	土木		43,725	53.2%		36,363	△16.8%		24,364	△33.0%	新規受注減少
	建築		29,929	57.2%		35,382	18.2%		55,510	56.9%	前期予定の大型案件を時期ずれで受注
	関係会社		10,241	△11.9%		8,995	△12.2%		11,058	22.9%	グループ内取引増加
	その他		201	9.1%		185	△7.8%		203	9.7%	
	連結調整		△ 3,694			△ 5,879			△ 5,036		
	合計		**80,404**	**44.9%**		**75,047**	**△6.7%**		**86,101**	**14.7%**	
売上高	土木		32,516	1.4%		38,012	16.9%		34,335	△9.7%	出来高減少
	建築		25,265	26.8%		31,785	25.8%		26,278	△17.3%	手持工事減
	関係会社		10,562	9.2%		8,410	△20.4%		9,059	7.7%	グループ内取引増加
	その他		201	9.4%		202	0.4%		203	0.6%	
	連結調整		△ 3,694			△ 5,359			△ 5,041		※セグメント内取引を含めた金額
	合計		**64,851**	**12.5%**		**73,051**	**12.6%**		**64,836**	**△11.2%**	
売上総利益	土木	18.1%	5,896	18.9%	19.2%	7,298	23.8%	22.3%	7,665	5.0%	手持工事原価改善
	建築	10.6%	2,670	12.9%	9.0%	2,868	7.4%	12.3%	3,227	12.5%	前年度低採算終了、手持工事採算好転
	関係会社	17.4%	1,840	36.9%	23.1%	1,939	5.4%	21.1%	1,922	△0.9%	
	その他	30.0%	60	20.1%	30.1%	60	0.7%	31.1%	63	3.9%	
	連結調整		20			42			△ 27		
	合計	**16.2%**	**10,488**	**21.8%**	**16.7%**	**12,209**	**16.4%**	**19.8%**	**12,850**	**5.2%**	

（連結範囲の変更）増加：東葉製作所、減少：ピー・エス・コンクリート

※当第2四半期と前第2四半期実績は、ピー・エス・コンクリートから引き継いだ販売製品の売上高、売上総利益については契約内容に応じて土木、建築に区分しています。

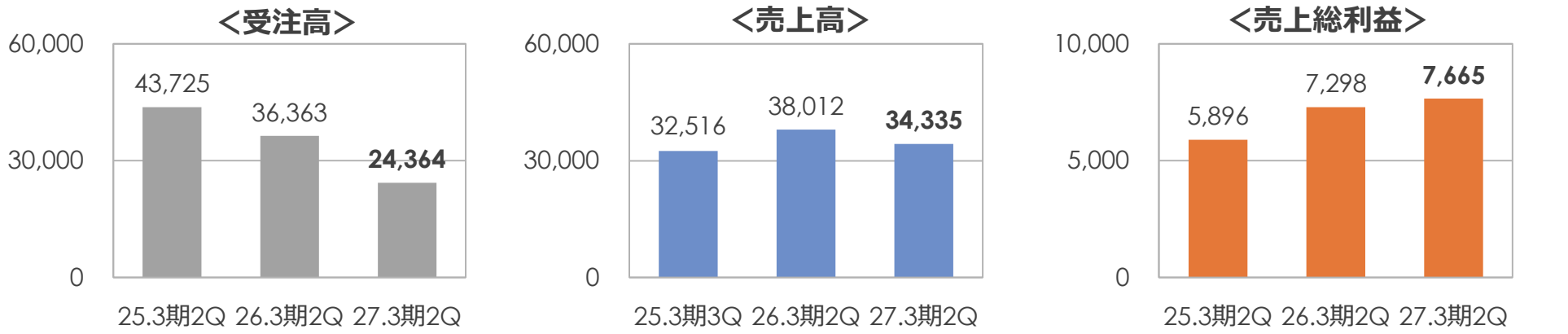
土木事業

業界環境

- 主力事業であるNEXCO関連事業は減少傾向が想定されるものの、今後10年程度は継続する見通し
- 国・地方自治体の新設橋梁工事は減少する一方で、メンテナンス工事が増加する見通し

業績推移

単位：百万円



- 受　注　高　：継続案件減少に伴う競争激化や予定案件の受注時期のずれにより、前年同期比33%減少
- 売　上　高　：手持工事は豊富にあるものの、準備段階の大型工事が複数あり、前年同期比約10%減少し減収
- 売上総利益：手持大型工事の原価改善、設計変更獲得により、前年同期比5%増加し増益

主な大型受注案件

工事名	工事概要
中央新幹線　山王川橋りょう	PC3径間連続PC箱桁ラーメン橋　橋長:128m 他、RC橋脚:30基
中国自動車道　烏帽子第三橋他1橋床版取替工事	床版取替:約1.7千㎡、床版防水、塗替塗装
国道250号　相生大橋　橋梁耐震補強工事その２	橋脚補強PCコンファインド：1基、水中施工

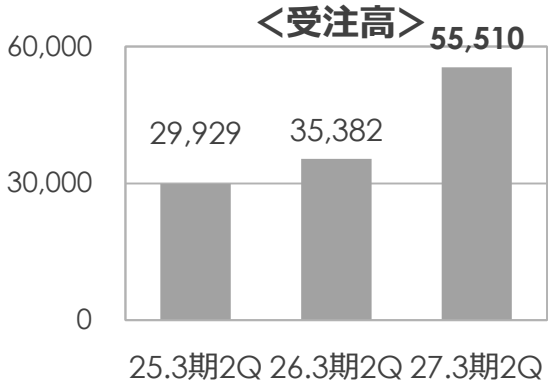
建築事業

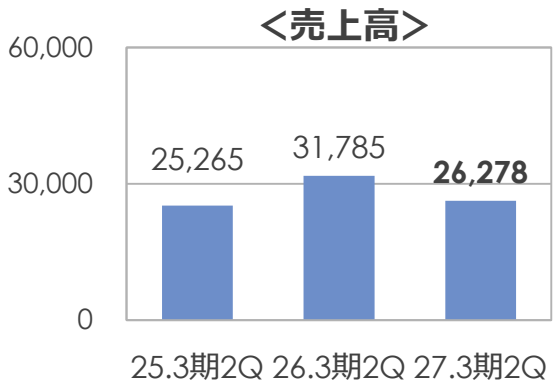
業界環境

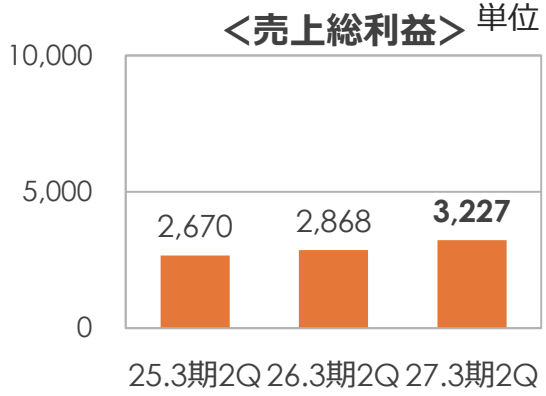
- 建築の建設投資は2020年以降増加傾向、2026年度も前年度比で増加の見通し
- 一方で、民間工事は「物価・人件費高騰や資材調達難によるコスト増」等の理由により工事発注の遅延や計画見直しが発生
- 日本建設業連合会加盟企業92社の2026年4～9月の民間建築工事受注額は前年同期比で減少
- 建設大手50社の手持ち工事高が積みあがっていることで、先々まで施工予定が埋まっており、サプライチェーンの確保が課題

業績推移

単位：百万円







- 受　注　高　　：前期受注予定案件の受注時期のずれなど、大型受注獲得により増加
- 売　上　高　　：繰越高減少、受注予定案件の時期のずれなどで前期より減収
- 売上総利益　：低採算工事が前期までに終了。手持工事の利益率改善により増益

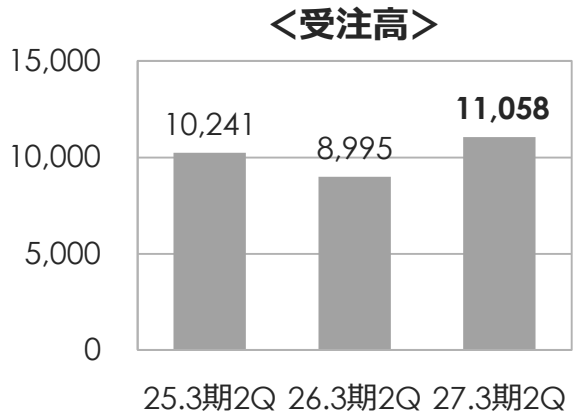
主な大型受注案件

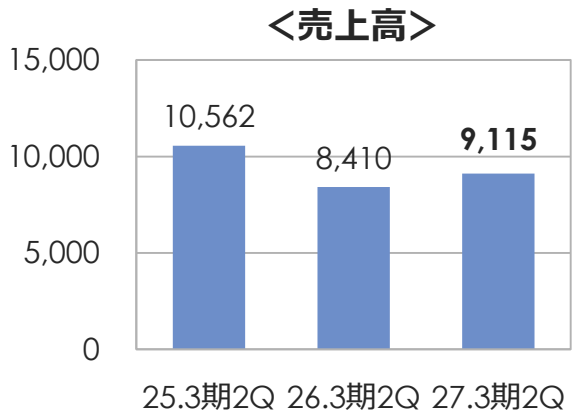
工事名	工事概要			
東海大学付属福岡高等学校防災機能施設整備事業 （新校舎耐震改築工事）	教育施設	RC造・SRC造・S造4階建	延床面積	約7,000㎡
(仮称)アパホテル＜神田大手町駅北＞新築工事	宿泊施設	S造13階建	延床面積	約4,200㎡
(仮称)日幸産業運輸株式会社　石狩第3物流センター新築工事	物流施設	S造平屋2階建	延床面積	約7,000㎡

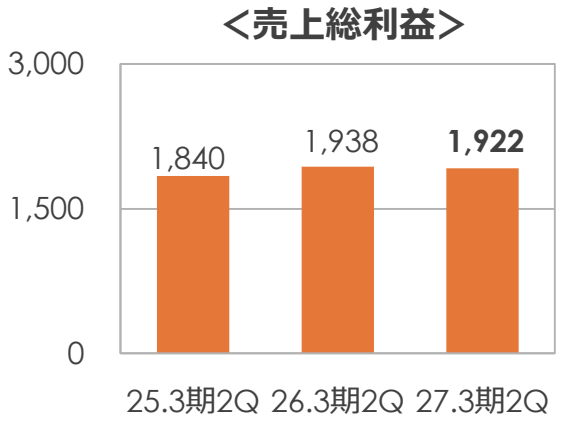
関係会社事業及びその他事業

関係会社事業 - 業績推移

単位：百万円

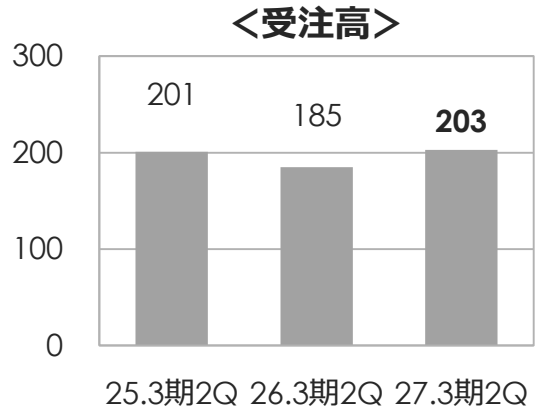


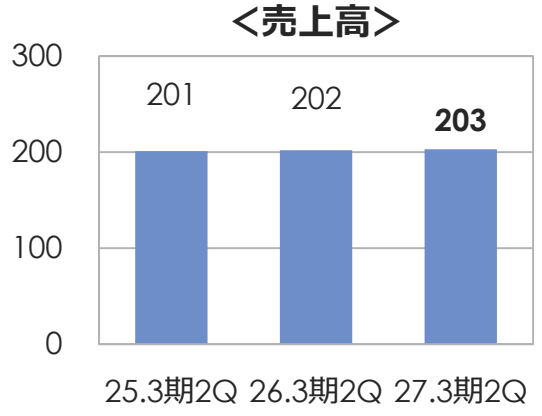


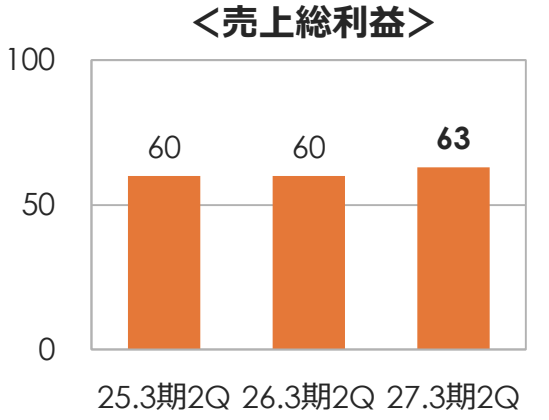


その他事業 - 業績推移

単位：百万円







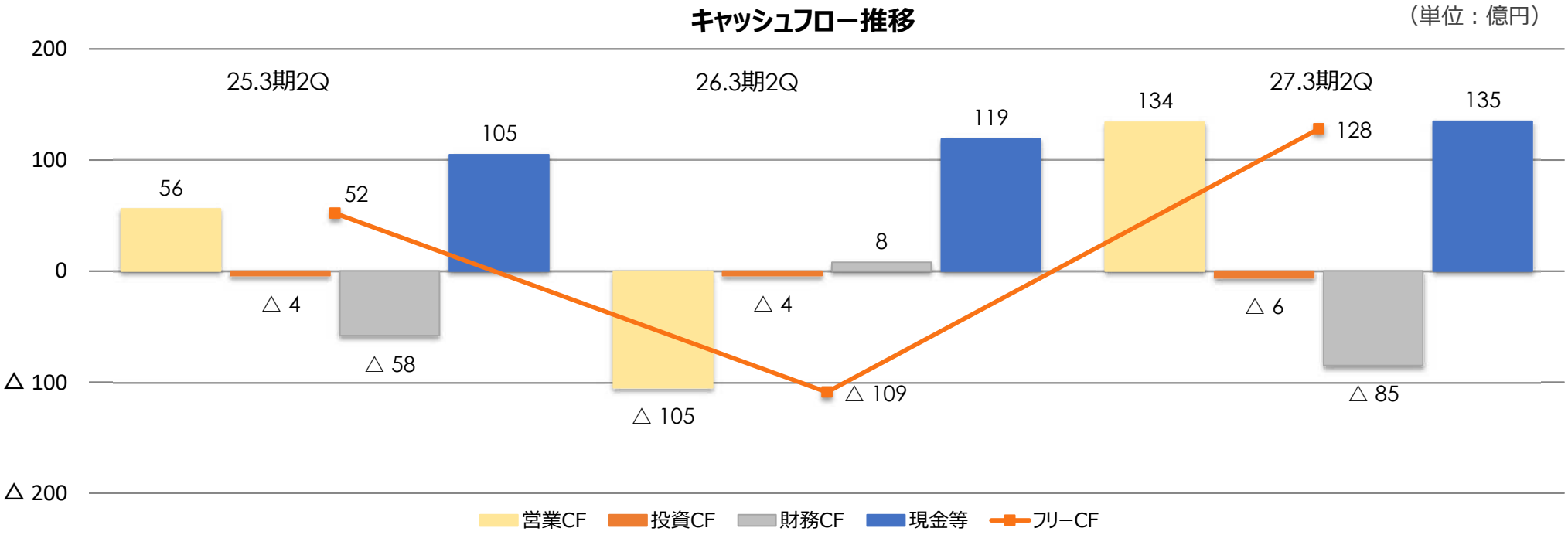
貸借対照表

連結貸借対照表の主な項目

（単位：百万円）	2026年3月期 ①実績	**当第2四半期 ②実績**	前期末比(②-①)	コメント
資産合計	142,464	**133,363**	**△ 9,100**	
流動資産	113,648	104,536	△ 9,111	
現金預金	9,343	13,629	4,286	工事代金回収による増加
電子記録債権等、完成工事未収入金・契約資産	96,159	84,149	△ 12,010	工事代金回収による減少
未成工事支出金	2,381	3,563	1,182	
その他の資産	5,763	3,193	△ 2,570	未収入金の回収による減少
固定資産	28,816	28,827	11	
有形固定資産	16,548	17,019	471	
投資その他の資産	12,228	11,775	△ 452	
負債合計	76,978	**67,160**	**△ 9,817**	
流動負債	60,586	50,740	△ 9,845	
工事未払金等、電子記録債務	27,233	24,209	△ 3,023	工事未払金等支払による減少
短期借入金	18,360	13,876	△ 4,483	現預金増加に伴う返済
契約負債	4,813	4,331	△ 481	
その他の負債	10,179	8,322	△ 1,857	未払金等の支払による減少
固定負債	16,391	16,419	27	
長期借入金	9,940	9,762	△ 177	
退職給付に係る負債	3,310	3,372	62	
その他の負債	3,140	3,284	143	
純資産合計	65,486	**66,203**	**717**	
株主資本	58,667	59,500	832	当期純利益、期末配当金支払
その他包括利益累計額	6,817	6,703	△ 114	
負債・純資産合計	142,464	**133,363**	**△ 9,100**	

キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フローの状況



	25.3期 2Q	26.3期 2Q	**27.3期 2Q**
営業CF	56	△105	**134**
投資CF	△ 4	△4	**△6**
フリーCF	52	△109	**128**
財務CF	△ 58	8	**△85**
現金等	105	119	**135**

2. 2027年3月期　業績予想

各セグメントの外部環境と今後の見通し

土木事業

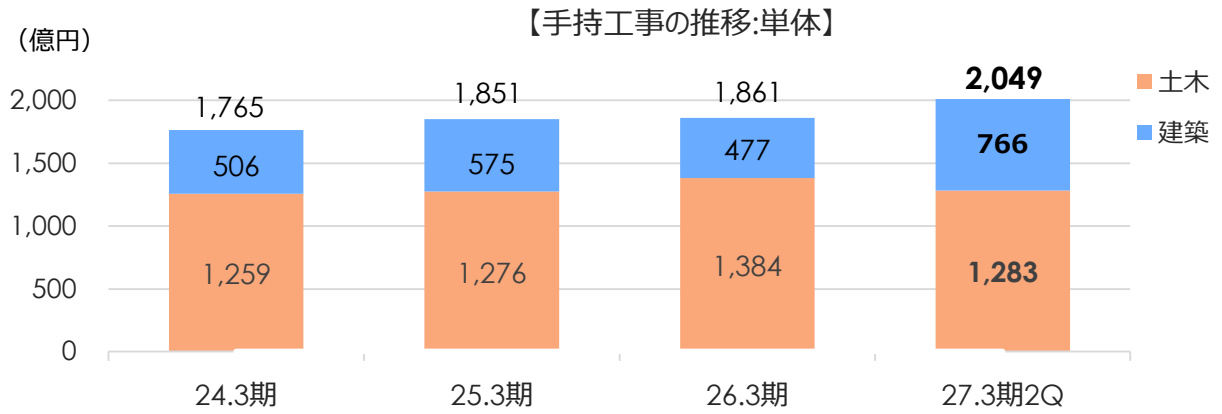
- 2026年度の「公共事業関係費」は、ほぼ前年並みの約6.1兆円。このうち国土強靭化関係予算での公共事業関係費は約4.1兆円であり、前年度比で1%増となる
- NEXCO関連の大規模更新・修繕事業は、減少傾向が想定されるものの、今後10年程度は継続する見通し。現在、重交通路線など難易度の高い工事が増加。施工環境に応じた更新技術開発へ取り組む
- 国・地方自治体においては、メンテナンス工事が増加する見通し。国交省は「群マネの手引きVer.1(2025年10月)」を公表し、「地域インフラ群再生戦略マネジメント(群マネ)」を推進。長期的に橋梁メンテナンス分野への対応を強化する

建築事業

- 建築事業の設備投資は引き続き堅調にあるものの、建設技能労働者不足や物価高騰による逼迫した状況は継続しており、民間発注者による工事計画の見直しや見送りも発生している。施工キャパシティや発注者の動向に注視し、採算性を重視した選別受注を継続する
- 防衛施設強靭化として、2023年度から5年間で約4兆円の予算が計画されている。特に九州・沖縄地区において大型プレキャスト(PCa)採用計画案件が増加傾向にあるため、九州支店に設置した専門部署を中心に、予定案件の確実な受注に注力する
- 建設技能労働者不足によりPCaの需要拡大が見込まれる。省人化や環境配慮といったPCaの優位性に訴求した営業展開や、自社及び協力提携工場の供給網を活用した高品質PCa部材供給の強化を図る

手持工事は2,049億円で過去最高

- 土木事業は1,283億円と高水準を維持、建築事業は大型案件の連続受注により766億円と大幅増加
- 過去最高水準の手持工事量を確保

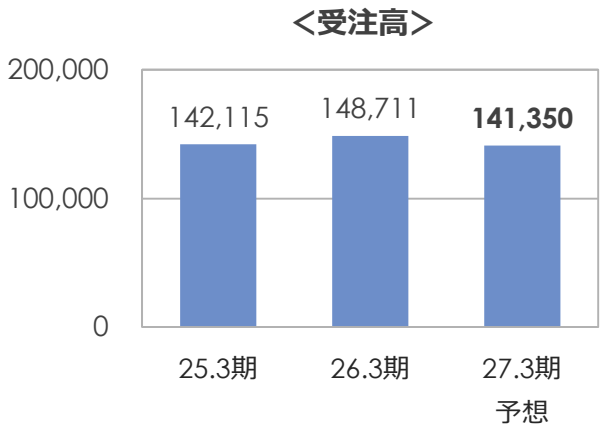


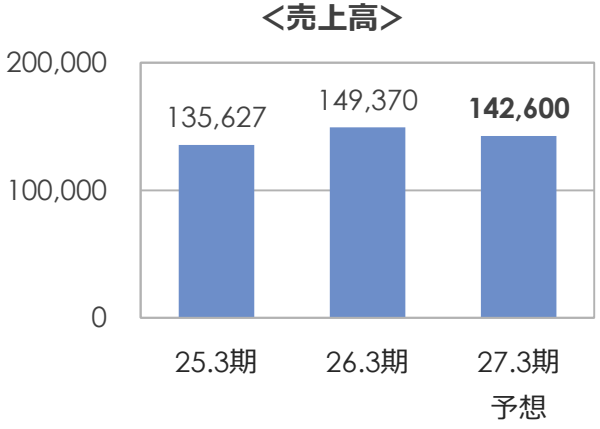
業績予想及び配当予想

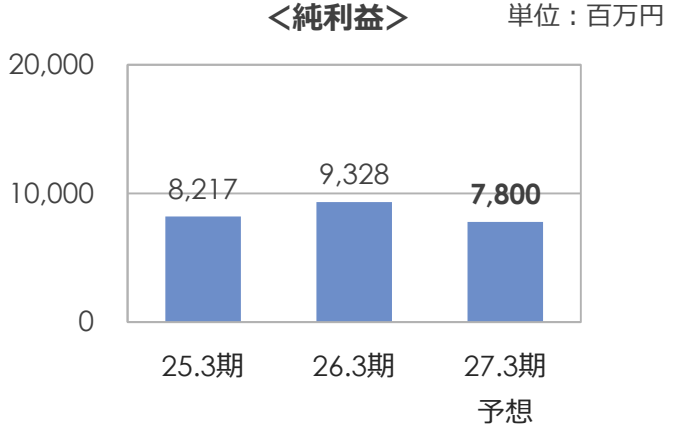
連結業績予想及び年間配当予想

■ **売上高の進捗は鈍いものの、営業利益、経常利益は順調に進捗**

（単位：百万円、%）	2025年3月期		2026年3月期		**2027年3月期**			2027年3月期進捗	
	実績	利益率	実績	利益率	予想	利益率	増減率	2Q実績	進捗率
受注高	142,115		148,711		**141,350**		△ 5.0%	**86,101**	**60.9%**
売上高	135,627		149,370		**142,600**		△4.5%	**64,836**	**45.5%**
売上総利益	23,032	17.0%	24,754	16.6%	**23,000**	16.1%	△7.1%	**12,850**	**55.9%**
営業利益	12,315	9.1%	12,932	8.7%	**10,800**	7.6%	△16.5%	**6,934**	**64.2%**
経常利益	12,252	9.0%	12,717	8.5%	**10,600**	7.4%	△16.6%	**6,731**	**63.5%**
親会社株主に帰属する純利益	8,217	6.1%	9,328	6.2%	**7,800**	5.5%	△16.4%	**4,344**	**55.7%**
１株当たり年間配当金	72.00円	中間22.00円	120.00円	中間40.00円	**101.00円**	中間50.50円		---	----







セグメント別業績予想

セグメント別受注高・売上高・売上総利益

	（単位：百万円、%）	2025年３月期		2026年３月期		**2027年３月期**		コメント
		実績	増減率	実績	増減率	**予想**	増減率	
受注高	土木	69,946	△ 0.8%	85,948	22.9%	69,000	△19.7%	土木分野において、前期大型工事を複数受注した反動減
	建築	58,986	22.4%	53,011	△10.1%	58,000	9.4%	
	関係会社	29,432	18.7%	23,504	△20.1%	20,970	△10.8%	
	その他	403	4.5%	389	△3.5%	400	2.7%	
	連結調整	△ 16,653		△ 14,142		△ 7,020		
	合計	**142,115**	**6.9%**	**148,711**	**△4.6%**	**141,350**	**△5.0%**	
売上高	土木	68,599	2.0%	75,814	10.5%	72,000	△5.0%	各セグメント減収
	建築	52,857	9.4%	62,905	19.0%	57,600	△8.4%	
	関係会社	25,650	3.0%	24,925	△2.8%	20,177	△19.1%	
	その他	403	4.5%	406	0.6%	400	△1.6%	
	連結調整	△ 11,884		△ 14,681		△ 7,577		
	合計	**135,627**	**4.9%**	**149,370**	**10.1%**	**142,600**	**△4.5%**	
売上総利益	土木	19.2% 13,168	26.0%	18.7% 14,162	7.5%	17.7% 12,750	△10.0%	土木：前期の大幅な設計変更、原価改善の反動減 建築：前期に低採算工事が完了したことにより利益率アップを見込む
	建築	9.7% 5,116	6.7%	9.5% 5,952	16.3%	11.0% 6,340	6.5%	
	関係会社	18.4% 4,715	35.5%	18.0% 4,488	△4.8%	18.7% 3,769	△16.0%	
	その他	29.7% 120	6.3%	31.1% 126	5.4%	27.5% 110	△13.1%	
	連結調整	△ 88		24		31		
	合計	**17.0% 23,032**	**22.6%**	**16.6% 24,754**	**7.5%**	**16.1% 23,000**	**△7.1%**	

※　2026年3月期よりセグメント情報は従来の「土木事業」「建築事業」**「製造事業」「その他兼業事業」**から「土木事業」「建築事業」**「関係会社事業」「その他事業」**の4区分に変更しています。
従来の各セグメントに含まれていた「関係会社事業」は独立セグメントとなり、従来の「製造事業」は「関係会社事業」に含まれます。

3. 中期経営計画2025の進捗

中期経営計画2025の進捗

企業価値向上を目的としたブランディング戦略の強化

中長期的な企業価値向上を目的として、テレビCMやデジタルメディア等を活用した情報発信を開始。
当社の技術力や事業価値への理解を促進し、営業機会の拡大、人材獲得力の強化、社員エンゲージメントの向上を図り、
持続的な成長につなげる

■新ブランドメッセージ制定

企業としての存在意義や社会的使命とは何かを改めて整理し、
「人々の暮らしを支える社会インフラ。そんなあたりまえの日常をより安全に、より強く、未来へつないでいく」という想いを込めて、
「**社会のあたりまえを強くする**」というブランドメッセージを制定

社会のあたりまえを強くする
PS Construction

■ブランドムービー制作（企業理解促進）

当社の存在意義や事業価値への理解促進を目的としてブランドムービーを制作



■テレビCM開始

当社初のテレビCMを制作し2026年11月16日より放映開始
社会・顧客・投資家からの認知度向上を図るため、「コンにちは。」との挨拶を交え、チャーミングな内容で当社を紹介



TVCM開始（認知度向上）

■デジタルメディア活用（技術力発信）

日経記事タイアップやPIVOT出演により、当社が創業以来培ってきたプレストレストコンクリート技術の説明、および建設業界の課題である生産性向上に大きく貢献するプレキャストコンクリート工法の優位性を発信

中期経営計画2025の進捗

技術開発の推進

- 高炉スラグ微粉末(GGBS)と高炉スラグ細骨材(BFS)を併用し，生産性を維持したまま蒸気養生を用いずにプレテンション方式のプレストレストコンクリート部材を製造できるコンクリート「**ハレーサルトPS**」の更なる低炭素化と工場への展開を推進





ハレーサルトＰＳの特長

超高耐久	GGBSとBFSの併用でコンクリートの超高耐久化を実現します。
低炭素	セメントの50%をGGBSに，さらに蒸気養生不要で，CO_2排出量を50%削減します。
環境負荷低減	BFSを細骨材として100%使用することで天然細骨材を用いません。
初期強度（生産性の維持）	C-S-H系硬化促進剤の添加と保温養生で，材齢18時間で緊張強度を確保します。
良好な施工性（生産性向上）	「締固めを必要とする高流動コンクリート」としたことで，優れた施工性を有しています。

～全７工場へ製造技術を展開中～
水島工場：２物件の適用実績
滋賀工場：実機試験完了、ハレーサルト工業会の認証手続き中

サステナビリティ経営の実践　環境への取り組み

当社環境目標である「The Green Vision」達成に向け、自社で消費するエネルギーに由来するCO_2削減の取り組みを実施

- 工事作業所で使用する建設機械等へのバイオ燃料導入に向け、全社的な供給情報・導入フローの展開
- 再エネ電力の工事作業所への原則実施継続と自社工場での導入拡大を推進

DXの推進

- 工事作業所で利用するアプリや業務情報へのアクセスをiPadアプリ「PS-PAD」に集約し全現場職員向けに展開
- 全国の作業所に共通環境を整備し、情報共有の円滑化、業務の標準化、生産性向上、安全・品質管理の確実性向上を推進



中期経営計画2025の進捗

土木事業　戦略方向性：ポスト大規模更新・修繕を踏まえた体制・戦略の具体化

メンテナンス・PC非橋梁

- **グラウト再注入、耐震補強**などのメンテナンス領域における案件獲得を重点的に推進し、当該分野の受注拡大を計画的に実行

【主なメンテナンス受注工事の概要】：2026年度 新規受注

工事名（発注者）	工事概要
北陸道　桑取川橋PCグラウト充填工事 （NEXCO東日本　新潟支社）	・PCグラウト充填調査及びPCグラウト充填 ・8径間連続箱桁橋
相生大橋　耐震補強工事その2 （兵庫県西播磨県民局）	・橋脚PCコンファインド　1基 ・水中施工

- **防衛火薬庫のプレキャスト化**提案を重点施策として強化し、採用の確保および受注獲得に向け着手



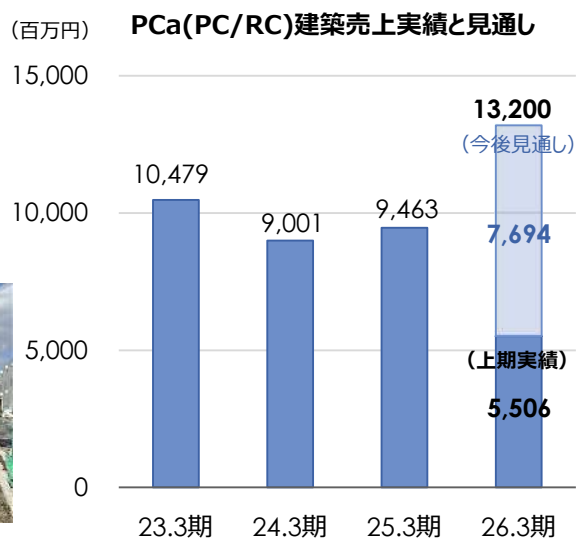
グラウト再充填工法（リパッシブ工法）


橋脚の耐震補強（PCコンファインド工法）

建築事業　戦略方向性：PC建築・リニューアル・一般建築を柱とした事業体制を構築

PC建築

- 熊本半導体施設や防衛関連施設などの大型プレキャスト・プレストレストコンクリート（PCaPC）工事の受注により、受注高は順調に推移
- 九州支店に新設した「防衛施設PC推進室」を中心に、九州・沖縄地区の防衛省案件の受注に注力
- 自社並びに協力提携プレキャスト工場を活用したプレキャスト建築（PC/RC）の営業展開を継続



リニューアル

- 東京建築支店にリニューアル専門部署を新設
- 全支店で前施工顧客を中心に訪問提案営業を展開。建物一次診断・リニューアル工事提案・施工へと繋げていく
- 協力会社との連携により施工体制を強化、事務所ビル、工場施設のリニューアル工事の受注に注力



熊本半導体施設のプレキャスト部材（当社久留米工場）

Appendix. ご参考

会社概要・沿革

会社概要

名　　称	ピーエス・コンストラクション株式会社
本　　社	〒105-7365 東京都港区東新橋一丁目９番１号 東京汐留ビルディング18階　　Tel (03)-6385-9111
設　　立	1952年3月1日
資 本 金	42億1,850万円
上　　場	東京証券取引所プライム
事業内容	1.プレストレストコンクリート（PC）工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業 4.プレストレストコンクリート（PC）製品及びプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売 5.プレストレストコンクリート（PC）工事用機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸 6.鉱物の採掘及びその請負 7.不動産の売買、賃貸及びそれらの仲介ならびに所有管理 8.運送業及び倉庫業 9.損害保険代理業及び生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業 10.前各号に関連ある一切の業務

沿　革

	㈱ピー・エス	三菱建設㈱
1952	東日本重工業（現 三菱重工業㈱）七尾造船所の諸施設及び 従業員を引き継ぎピー・エス・ コンクリート㈱を設立	
1960		三菱鉱業㈱ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新菱建設㈱設立
1969		三菱建設㈱に社名変更
1991	㈱ピー・エスに社名変更	
2002	合併により㈱ピーエス三菱発足	
2004	ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd .設立	
2012	インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立	
2022	東京証券取引所市場第一部からプライム市場へ移行	
2023	大成建設㈱による株式公開買付けにより、同社が親会社へ異動	
2024	• 関係会社である㈱ピーエスケーが、PC工事向けコンクリート二次製品用鋼製型枠及び架設機材の設計・製作を目的とする関係会社、㈱東葉製作所を子会社化 • ㈱ピーエス三菱からピーエス・コンストラクション㈱に社名変更	
2026	• 関係会社であるピー・エス・コンクリート㈱を吸収合併	

グループネットワーク

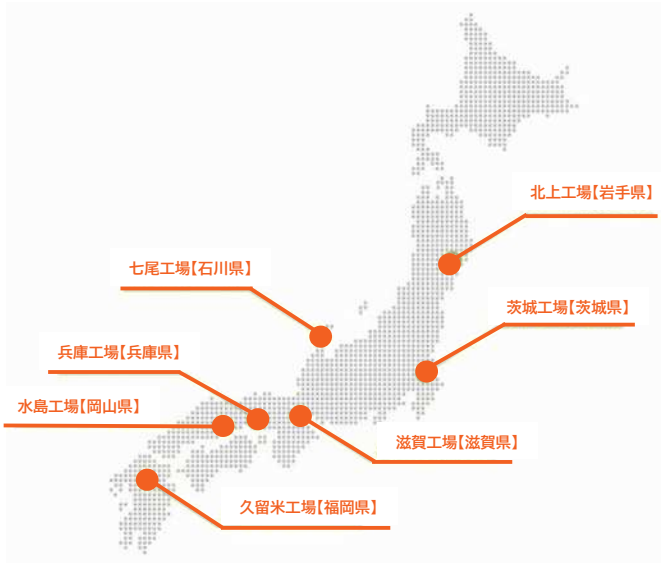
ピーエス・コンストラクショングループ（主要国内4社）

ピーエス・コンストラクション

支　店	・札幌支店 ・東北支店 ・東京土木支店 ・東京建築支店 ・名古屋支店 ・大阪支店 ・広島支店 ・九州支店
営業所	・21箇所

株式会社ピーエスケー	PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の　製造・販売及びこれらの運用・活用に関するエンジニアリング
株式会社ニューテック康和	道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル
菱建商事株式会社	建築資材販売、物流、不動産関連など
菱建基礎株式会社	土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

国内工場ネットワーク



海外ネットワーク



事業構成

建築事業

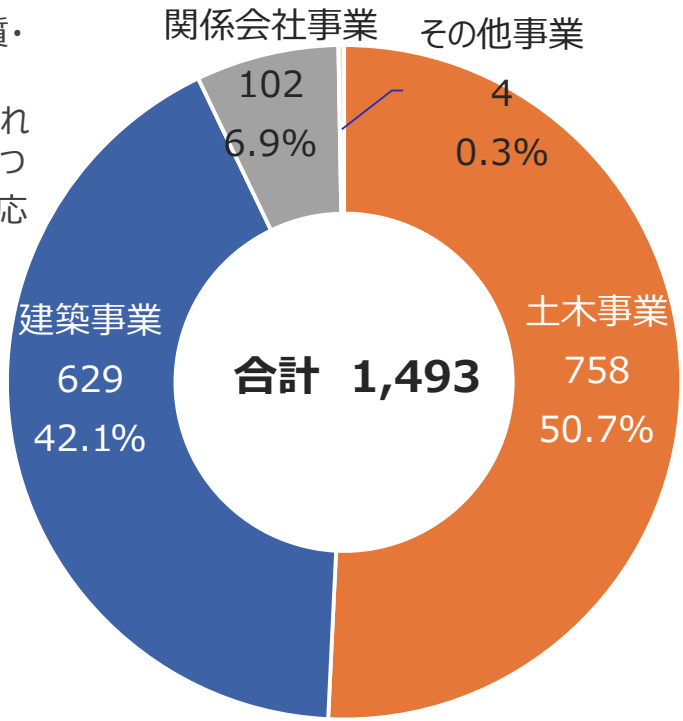
【強み】

- プレキャスト（PCa）工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
- 独創的なPC建築から一般建築まで優れた企画提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 高度な技術力により様々なニーズに対応した構築物を提供
- PC工事その他一般建築工事の請負
- PC製品の製造販売



福岡中央病院

セグメント別売上高



セグメント別売上高・構成比率
（2026.3月期　単位：億円）

土木事業

【強み】

- 日本におけるプレストレストコンクリート（PC）の実用化に初めて成功し、PCのパイオニアとして、多くの橋梁施工実績
- PC業界のトップカンパニーとして、多くの技術を開発し、国土基盤の整備に貢献
- 鉄道・空港・港湾・橋梁下部工・上下水道・発電所・防災などPC橋梁のみならず、様々な土木全般の事業を展開



首都圏中央連絡自動車道　古和高架橋

関係会社事業

- PC工事の資機材の製造・販売・賃貸
- コンクリート構造物の維持補修

その他事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介

プレストレストコンクリート（PC）技術とプレキャスト（PCa)技術とは

プレストレストコンクリート（PC）とは

PCは「高強度の鋼材によって、あらかじめ（プレ）応力（ストレス）を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点である“引張には弱い”を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、梁の高さを抑えながら、その長さを大きく取ること（大スパン化）ができます





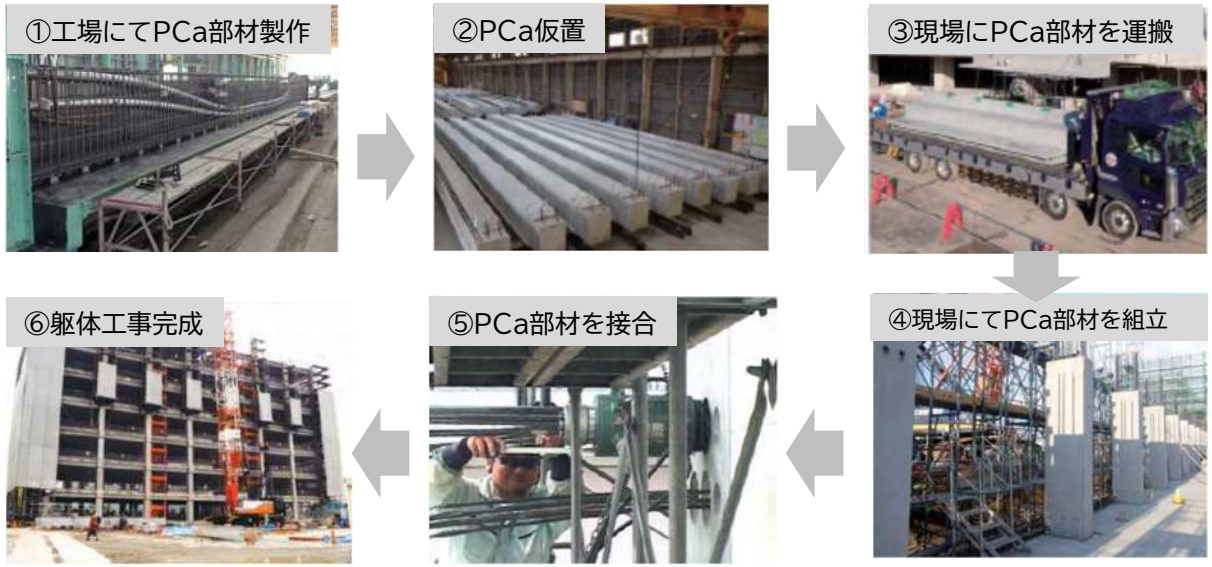




プレキャスト（PCa）とは

現地以外の工場などで、あらかじめコンクリート部材を製作することです

- 工場で生産されるため、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組みコンクリートを施工する場合より、騒音や粉じんの発生を抑え周辺の環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます



社会のあたりまえを強くする

PS Construction

将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予測と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

IRに関するお問い合わせ先

ピーエス・コンストラクション株式会社　管理本部　総務部　広報・IRグループ
〒105-7365 東京都港区東新橋一丁目9番1号　東京汐留ビルディング
TEL：03-6385-8002　FAX：03-6316-2321　メールアドレス：koho.ir@psc.co.jp

ブランドムービーはこちらから